

地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業計画書

1. 基本情報

自治体名	他市町村との連携	事業番号	事業名			
福島県	－	A-24	震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業			
事業実施年度	当該年度総事業費	経費区分（該当区分に○を入力）				
R 8 年度	1,756,007 千円	①情報発信事業			②外部人材活用	
事業費	左記 事業費のうち 国費負担分	i 風評動向調査	ii 体験等企画実施	iii 情報発信コンテンツ 作成	i 企画立案のための外 部人材の活用	ii 地域の語り部の育成
11,002 千円	5,501 千円					○

2. 風評等の現状や課題、これまでの取組

自治体が抱える風評等の現状について

- 「風評・風化対策に関する情報発信分析事業」で以下のような結果が示されている。

＜福島県のイメージについて「良い」「まあまあ良い」の回答 単位％＞

震災発生前	震災発生後	H27.10	H28.8	H29.9	H30.9	R1.9	R2.9	R3.9	R4.9	R5.9	R6.9
43.8	20.4	28.7	33.8	37.1	40.6	41.1	43.0	46.1	52.0	51.4	49.0

＜福島県産食品の購入意向＞

「福島県産は購入しない」と「福島県産をやや避けている」を合わせた割合 12.1%（R6 年）

＜福島県への訪問意向＞

「訪れたくない」と「あまり訪れたくない」を合わせた割合 14.4%（R6 年）

これらの結果から、福島県に対するイメージは震災直後と比較して改善傾向にあるものの、県産食品の購入や訪問意向においては依然として一定割合の消極的な認識が存在していることが確認される。

また、復興の進展状況や食品等の安全性確保に関する科学的取組についての理解が十分に浸透していない層が存在しており、風評及び風化の双方に対応した継続的な情報発信が必要な状況にある。

上記の現状の原因となる課題について

- 甚大な災害に見舞われた福島県の復興のあゆみを着実に進める過程等を後世に引き継ぎ、復興の現状や食品等の安全性確保に関する科学的取組を正しく理解し、国内外へ発

信できる担い手の育成が必要である。 ○高校生の語り部活動は、復興の現状や地域の魅力を若い世代の視点から発信できる有効な手法であるが、現状では取組が一部地域・学校に限定されており、全県的な情報発信体制としては十分とは言えない。また、海外を含む幅広い層への発信機会が限定的であり、国内外への効果的な情報発信の強化が課題となっている。
上記の課題に対するこれまでの自治体の取組について（自治体独自の取組を含む）
震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業 ○震災と復興に関する地域課題探究活動をととして、震災、復興、未来について、自分の考えを持ち、自分の言葉で語ることのできる高校生（このような高校生を「高校生語り部」と呼ぶ）の育成をはかり、その学びの過程で、県内外・海外へ福島のことを情報発信したり、県内外・海外の高校生等と交流したりする活動を通して、震災関わる風化防止、風評払拭につなげる活動の支援を行ってきた。 ○令和３年度事業では、各校における震災関連学習・語り部活動の人材育成や県内外の学校等との交流（語り部活動）等を実施した。 ○令和４年度事業では、オンラインでの交流を実施し、より多くの学校等との交流（語り部活動）を行い、年間を通して取扱うテーマの精選方法や発表方法等の工夫も行った。また、各校の学習の成果等を盛り込んだリーフレットを作成し、県外の高校等へ配布したり、伝承館を利用した教員対象の指導法研修会を初めて行うなどした。 ○令和５年度事業では、県内外における交流（語り部活動）実践校を私立高校にも拡充するとともに、交流先を海外にも拡大し、現地の高校生等に福島のことを発信する活動を行った。また、各学校において、自校の取組をリーフレットにまとめ、震災の記憶のない小中学生や、交流活動先の高校生等に配布し、福島の復興の様子が伝えられるよう支援した。 ○令和６年度事業では、これまでの取組を継続しつつ、各学校で震災関連学習の指導を担う教員の指導法研修会を「教職員現職教育計画」に明確に位置づけることで、県教育センター及び各地区の教育事務所がともに研修を担う体制づくりを行い、本事業を核とした震災に関わる風評払拭、風化防止につながる教育の充実を図った。 ○令和７年度事業では、他県の高校生と福島の高校生が浜通りで交流したり情報交換したりする取組を支援するとともに、県内外及び海外での交流活動実践校の生徒、教員が一同に会する交流会を浜通りで実施し、多様な視点からの震災の記憶、福島の今、そして未来について発表し、交流した。
上記の取組における成果について
震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業 ○伝承館における教員の指導法研修会参加者（高校教諭） ・R3:実施なし ・R4：34名 ・R5:38名 ・R6:38名（教育事務所指導主事等含む） ・R7:54名（教育事務所指導主事等含む） ○実践校への応募数（カッコ内は全県立高校に占める割合（％）） ・R3：27校（31.1％） ・R4:25校（31.2％） ・R5:17校（23.3％） ・R6:18校（24.7％） ・R7:13校（18.1％） ○上記の取組の継続、充実により、生徒が自身の体験等に基づいて、県外や海外の高校生等の若い世代に「震災の経験と教訓」、「福島の魅力」、「正しい福島の情報」を知ってもらうことができ、風評を払拭することにつながっている。

３．事業内容の詳細

今年度の具体的な取組内容 ※以下の項目に沿って記載をお願い致します。
震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業

○令和 8 年度は震災から 15 年の節目を迎えることを念頭に、復興の現状や食品等の安全性確保の取組、地域の魅力について国内外へ情報発信できる高校生語り部の育成及び発信機会の拡充を図る。

○県内外及び海外の高校生等に対し、復興の現状、農産物・水産物の安全性に関する科学的取組、地域の魅力について、地域課題探究学習の成果を基に情報発信を行い、県内の農産物や水産物の安全性について探究した成果も併せて発信する活動を通して、福島復興、いまだ根強い風評払拭につなげる。

1 地域課題探究学習

①実施期間：令和 8 年 4 月～令和 9 年 2 月

②実施体制：単独

③実施場所：福島県内の各県立高校

④概算費用：1,270 千円（旅費：275 千円 謝金：515 千円 印刷製本費：480 千円）

⑤実施内容：

○県内の各県立高校が、生徒に対して、復興の現状や食品等の安全性確保の取組、地域の魅力について理解を深めるとともに、国内外へ情報発信することを目的として、外部講師（※1）による震災の風化防止、記憶の継承等に関わる震災関連授業等を実施したり、地域で福島県産の風評払拭に取り組む企業や生産者の方々の声を聞く機会を設けたりすることで、多様な視点から「福島の復興」「福島の魅力化」について考えることのできる高校生語り部育成につなげる。

※1 外部講師としては、語り部として活躍されている人や、震災に関する様々な経験や知識をもっている方、表現行為・発信行為に精通している方等を想定。

○地域課題探究学習の成果を盛り込んだ、学校独自のパンフレット（リーフレット）（※2）を作成し、県外・海外の高校生や地域の若い世代（小中学生）との交流会等で配布、情報発信することで、「震災の経験と教訓」、「復興の現状」、「食品等の安全性」、「福島の魅力」、「正しい福島情報」をより広範囲に伝え、風評払拭及び風化防止につなげる。

※2 リーフレットは、前年度までの各校の学習の成果等を盛り込むことで、継続的な学びと継続的な情報発信につなげることを想定するもの。

⑥「復興・創生に向けた取組や食品等の安全性等の情報」の具体的な発信内容：

○各校で行われる復興に関わるワークショップ、地域課題探究学習、体験学習等の成果をパンフレット（リーフレット）にまとめ、県内外・海外での情報発信に活用する。

⑦「地域の魅力に関する情報」の具体的な発信内容：

○各地域の農産物、特産品を活用した商品開発や販売促進につながる探究活動

2 県外、海外の学校等との交流（語り部活動の実施）

①実施期間：令和 8 年 7 月～令和 9 年 1 月

②実施体制：単独

③実施場所：福島県浜通り地域、県外及び海外の各地

④概算費用：8,171 千円

⑤実施内容：

○県内の県立及び私立高校の生徒が、各学校における地域課題探究学習で学んだ福島震災、復興、魅力に加え、県産農産物や水産物の安全性について、県外及び海外の高校生等に対し、語り部活動を行いながら交流し、積極的な情報発信を行う。

○福島について学びたい、福島の高校生と共に学びたいと考えている県外の学校と語り部活動を行う学校のマッチングを行い、浜通り等で交流活動を行う。かつて原爆を投下された地域、東日本大震災に限らず大震災を経験した被災地など、様々な「被災」経験のある土地に立地する学校等との交流を行う。県外から福島を訪れた高校生等に福島の魅力、復興の様子を直接感じてもらう機会をつくる。

○本事業については、県立だけでなく私立高校の生徒参加も可能としており、語り部活動に熱心な県内の県立高校とともに全県的かつ広範な取組としていく。

○県外や海外での活動を充実させていくために、語り部活動に取り組む県内の県立及び私立高校の生徒が一同に会する、実践発表及び交流の場を設ける。生徒と教員という立場、専門高校と普通高校、県立高校と私立高校といった高校の枠組み、浜通り・中通り・会津といった地域枠を超えて、福島が抱える課題に向き合い、福島が誇る魅力を語り、福島のこれからについて共に考え、発表する場となるよう交流会を充実させ、次年度以降の活動の充実につなげる。

○各学校の取組を各学校単位で HP 等で活動報告を行ったり、交流会の様子を教育委員会の公式サイト上で広く周知したりするなど、SNS 等も有効に活用しながら積極的な情報発信を行う。

⑥「復興・創生に向けた取組や食品等の安全性等の情報」の具体的な発信内容：

○地域課題探究活動の中で学ぶ、処理水や常磐もの等含む農産物・水産物の安全性、地域コミュニティの復興等について、福島に住む高校生が、県外及び海外の高校生等に、自ら考えたことを自らの言葉で語る交流活動を行う。

⑦「地域の魅力に関する情報」の具体的な発信内容：

○県内外・海外の高校生等に、震災の記憶や教訓を伝えるだけでなく、福島が誇る自然、観光地、特産品についても探究活動の中で学び、交流活動通じて発信することで福島の魅力を伝えていく。

3 伝承館を利用した教員対象指導法研修会の充実

①実施期間：令和8年8月～12月

②実施体制：単独

③実施場所：福島県浜通り地域

④概算費用：1,556 千円

⑤実施内容：

○県内外・海外へ福島の今を情報発信したり、県内外・海外の高校生等と交流したりする活動を通して、震災関わる風化防止、風評払拭につなげる活動を行う中で、震災、復興、未来について、自分の考えを持ち、自分の言葉で語ることで育てるために、教員向けに指導法研修会を実施する。

○県立高校教員（特に初任者研修対象教員）については上記1～2の生徒の活動の支援（促進・サポート）を行うための研修とする。

○語り部人材を継続的に育成し、語り部活動を持続可能なものとするためには、語り部活動を行う高校生から、次世代の語り部活動の担い手となり得る小中学生に、直接その体験を伝えることも重要であると考えられることから、公立小中学校教員についても、各教育機関における震災関連学習の指導方法を習得する研修会を実施する。

⑥「復興・創生に向けた取組や食品等の安全性等の情報」の具体的な発信内容：

○県内の農業、商業、工業等各専門学校で取り組む地域の特産品・農産物を生かした加工品等の安全性の情報発信、販売促進について情報共有するとともに、海外・県外に生徒を引率して福島復興を発信している活動についても情報共有し、福島復興について教員自らが情報発信の起点となる。

⑦「地域の魅力に関する情報」の具体的な発信内容：

○学校現場において生徒が主体的に地域の魅力について探究し、発信するには、教員自らが震災について学び、その中で復興しつつある福島の魅力について知り、生徒と共に交流活動に主体的に動き出す必要がある。他校における積極的な探究活動、情報発信、交流活動について共有することで、より多くの高校での広範な活動が促進される。

4. 事業における目標等

今年度におけるアウトプット ※定量的な目標に限る	今年度におけるアウトカム ※定量的な目標に限る
○語り部や風評払拭、風化防止に関連する探究活動を実施した県内県立高校の割合 80%	○在学中に県外や海外に対して、語り部や風評払拭に関連する何らかの情報発信を行った県内県立高校生の割合 20%
長期的な目標 ※1つ以上は定量的な目標を設定	長期的な目標の現在の進捗状況 ※達成度合いも記載（○%）
○地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合 100%	○地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合 55.9%